

〔原 著〕

手洗いの細菌学的効果に関する研究

大野 知代

藍野学院短期大学

【要 旨】 手指の細菌による汚染について調査した。

手洗い・排便の前後、貨幣に触れる前後などにおける指先、およびトイレのドアノブをこすった綿棒を4種類の寒天培地に接触させて細菌コロニー数を測定した。その結果、流水による手洗い前の指では汚染が著明であった。一方、排便後トイレットペーパーを使用した指はときに細菌に汚染されていたが、排便後の汚染は必ずしも大腸菌によるものではなかった。また、コインや紙幣による手指の汚染は病院や家庭のトイレのドアノブと同程度顕著であった。石鹼を使用したあと流水で流して乾燥（温風）させることは、手指の細菌による汚染を除去するのに効果的であった。以上の結果から、手洗いは食中毒などの感染予防のために必要であると再認識された。

キーワード：細菌汚染, 手洗い, 排便, 貨幣, トイレのドアノブ

〔原 著〕

女性の不定愁訴に関する研究

蛭田 由美

藍野学院短期大学

【要 旨】 14歳から84歳までの女性216名を対象に、日常生活のなかでの精神的な健康状態について調査を行い、年齢と不定愁訴との関連について分析し、次のような結果が得られた。CMIによると、10代から20代と50代の2つの時期に、心理的に不安定な時期があった。若い女性は中高年の女性に比べて、多様で強い不定愁訴を示した。中高年の女性は、若い女性に比べて不定愁訴の訴えが少なかった。この結果から、女性の身体的症状の訴えは世代によって捉え方の違いがあることが示唆された。

キーワード：女性, 不定愁訴, 生活スタイル, CMI, SMI

〔原 著〕

デイケア施設通所中の慢性分裂病患者に見られる 生活習慣病の発生要因について

井戸由美子*, 牧野純子*, 奥嶋涼子*,
堤重年*, 塚俊明**

* 大阪精神医学研究所 新阿武山病院

** 藍野学院短期大学

【要 旨】 デイケア施設通所者に見られる生活習慣病の発生要因を調べるために、新阿武山病院のデイケア施設に通所中の分裂病患者（デイケア群）54名と、精神科慢性疾患治療病棟に入院中の分裂病患者59名を対象に身体的調査項目（身長、体重、肥満指数、血圧）、血液生化学的調査項目（中性脂肪、総コレステロール、血糖値）、生活習慣（運動量、食べ物・飲み物量、居住形態）について比較した。その結果、入院群に比べてデイケア群に体重、肥満指数、血圧、中性脂肪、総コレステロール、血糖値に異常値が高く見られた。その原因として、入院群は三食とも病院食を食べており、またおやつなどもある程度管理され制限されているのに対し、デイケア群では清涼飲料水、ファーストフードなどを多くとっていた。さらに女性群に比べ男性群に高い異常値が見られたことは、男性群の食生活は女性群に比べ正しく管理されていなかったためと考えられる。今後食生活の改善についての教育が必要と考えられる。

キーワード：生活習慣病，デイケア施設通所中の慢性分裂病患者

〔原 著〕

近畿圏の特別養護老人ホームと 老人保健施設の実態調査

河野益美

藍野学院短期大学

【要 旨】 2000年4月から始まった介護保険制度の施行後、高齢者介護施設の実情を知るための調査を実施し、その実態を明らかにした。改善されるべき点としては、スタッフがとっている入居者との日常的なコンタクトのあり方、食事および排泄の際の援助のあり方、痴呆のある入居者への介護内容、および入居者とその家族の意思尊重の姿勢である。また、特別養護老人ホームと老人保健施設の間で介護活動における基本的な違いは見いだせなかった。

キーワード：施設ケア，高齢者，生活の質，入居者の権利

〔報 告〕

多職種の係わりによる料理実習

原 明 子, 長谷川 千 晶, 畑 地 さやか, ジョナサン チェン

(財)浅羽医学研究所 附属 岡南病院

【要 旨】 退院した患者さんが入院時よりも肥満傾向にあることに着眼し、作業療法士、栄養士、看護師、PSW 等精神科に係わる多職種が一丸となって、精神科入院患者さんの栄養指導を通じた社会復帰への取り組みを試みました。

この試みは、患者さん自らが予算の範囲内でバランスのよい食事を摂る訓練です。具体的には、安全性と衛生面の確保を図りながら、食事の献立、買い物、そして調理を行い、さらには、自己評価を行うものです。

食事の献立をし、実行に移すという日常的な訓練を通じて退院後の自立への自信を芽生えさせ、社会復帰へ促進への一歩となりました。

キーワード：チーム医療、料理実習、栄養バランス、社会復帰、経済観念